



さっぽろ市  
01-F04-25-2646  
R7-1-161



# 笑顔の種を まこう!

みんなで  
つくる

## 子ども向け インクルーシブイベント ポイント集

# 笑顔の種を まこう!

みんなで  
つくる

## 子ども向け インクルーシブイベント ポイント集

## SAPPORO

札幌市保健福祉局障がい保健福祉部障がい福祉課  
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目  
TEL. 011-211-2936 FAX. 011-218-5181

このポイント集は、障がい児の保護者の皆さんや札幌市主催の小学生向けインクルーシブイベントに参加した方などの意見を反映して作成しました。  
2025年度に実施したインクルーシブイベントの内容は、札幌市公式ホームページをご覧ください。



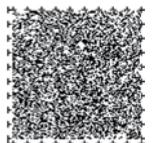
札幌市公式  
ホームページ

おとなしい子も声の大きい子も、車いすの子も足の速い子も、子どもはみんな好奇心がいっぱい。  
でも、すべての子どもたちが参加できる場って地域にまだ少ないと思いませんか。  
障がいの有無にかかわらず、「ここに住んでいてよかった」と思えることは、みんなの願い。  
いつものイベント企画に「多様性」という魅力をプラスすると、ワクワクする交流の場が生まれるかもしれません。

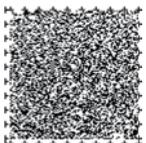


SAPPORO

札幌市



音声コード Uni-Voice



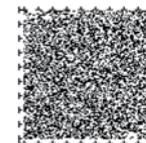
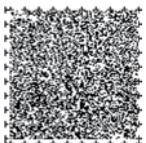
## 子どもが笑顔になるイベントを、みんなでつくろう

このポイント集は、町内会やNPO、企業、団体など子ども向けインクルーシブイベントに取り組もうとする皆さんを企画運営の視点から応援する冊子です。運営する皆さん自身が楽しみながら笑顔の種をまく活動に取り組んでみませんか。



### インクルーシブイベントって？

インクルーシブは「すべてを包み込む」という意味です。インクルーシブイベントとは、障がいの有無、年齢、性別、国籍、経済状況などにかかわらず、誰もが参加者として等しく楽しめるように設計されたイベントのことです。



## みんなが楽しめるイベントを考えよう

インクルーシブイベントの企画では、参加者一人ひとりが「私もできた」「楽しかった」と感じられるような工夫が大切です。子どもが好きなものや楽しめそうなものからヒントを得ましょう。

### 1 五感を刺激する活動を取り入れる

視覚だけでなく、触覚や聴覚も使って楽しめる要素（粘土遊び、音を使った表現など）を取り入れると、参加できる子の幅が広がります。

### 2 勝ち負けよりも「体験」や「プロセス」を重視

競争ではなく、みんなで協力して一つのを完成させたり、一緒に同じことを体験して共感したりする喜びを味わえる企画にしましょう。

### 3 「もしも」から発想する

「もしも車いすだったら」「もしも耳が聞こえなかったら」と、具体的な参加者を想像することで、配慮すべき点が見えてきます。

### 4 障がい児の支援環境やニーズを知る

障がい児も参加できるイベントを体験したり、企画する側が障がい児の支援環境を知ろうとすることがニーズの理解につながります。

#### 具体的な イベント例



参加した保護者の声  
初対面の子ども同士が  
ふれあっていて  
うれしかった

#### 共同制作アート

大きな紙に手形や筆で  
自由に描いたり、  
身近な素材を使って  
オブジェを作ったりする活動

#### ユニバーサルスポーツ体験

「モルック」や「ポッチャ」、  
座って投げてもいい  
「風船バレー」など、  
ルールを工夫したスポーツ

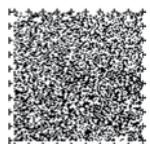


参加した保護者の声  
家ではできない体験が  
新鮮でした

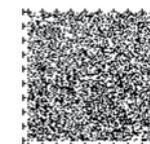
参加した保護者の声  
子どもも大人も  
楽しめました！

#### 音や光を楽しむ体験

身近な素材で  
楽器を作ったり、  
光のショーを演出したり  
する体験



写真：札幌市2025年度事業「ワイワイ描くごちゃませハート」  
「みんなでワイワイふうせん&モルック大作戦」  
※イベントの詳細は裏表紙の二次元コードから確認できます。



# みんなが一緒に楽しめる運営を目指そう

## 1 安全な会場づくりの準備

### ● 会場設備の確認

会場周辺の駐車場、送迎スペースを確保しましょう。また、段差を解消するためのスロープ、バリアフリートイレ、ユニバーサルシート、授乳スペースなどを確認しましょう。

### ● 安全管理をしっかり

緊急時の避難経路を明確にし、ケガや体調不良に備えて救護体制を整えましょう。

## 2 スタッフの役割

### ● サポートのための情報共有

障がい特性に関する情報をスタッフ間で共有し、サポートのための準備をしましょう。

### ● 個別対応に備える

「配慮の必要なこと」を参加者に聞いている場合は、その情報をスタッフ間で共有し、対応できる体制を整えましょう。

## 3 広報物(チラシ・ウェブサイトなど)の準備

### ● 保護者の不安に寄り添う

他の子からの視線や、自分の子が場を乱すのではないかと保護者の不安を軽減しましょう。また、問い合わせの手間を省く具体的な情報を掲載しましょう。

### ● 一緒に楽しむための工夫

一方的に何かをしてあげるという姿勢ではなく、「みんなが一緒に楽しむために、私たちはこんな工夫をします」というメッセージを伝えましょう。

### ● 専門スタッフ\*P10との連携を明記する

障がい児に理解のある専門スタッフと連携・協力している情報を伝え、保護者の安心感は大きく高まります。

## 「不安」を「安心感」に変える 事前情報提供の工夫

気づいて  
いますか？  
保護者の  
気持ち



☞ 子どもが安心して  
楽しめるイベントなの？

!!! イベント内容を楽しそうな写真や  
イラストで具体的に表現する

☞ 車いすやベビーカーで  
参加しても大丈夫？

!!! 会場内のバリアフリー情報  
(スロープ、バリアフリートイレなど)を載せる

☞ 体の弱い子や車いすの子も  
無理なく参加できる？

!!! 運動系イベントでは  
「座ったままでも参加できる」などの  
方法を記載する

☞ 子どもが飽きたり疲れたり  
したときに、帰っても大丈夫？

!!! 「途中参加・途中退出OK」など  
参加のしやすさを記載する

☞ 個別の困りごとに  
対応してもらえるか心配

!!! 「特別なサポートが必要な場合は  
お申し出ください」と明記する

☞ 専門的な手助けをして  
もらえる環境かどうかを聞きにくい

!!! 専門スタッフ\*P10や  
連携・協力団体を明記する

☞ 障がい児や保護者が経験しがちな  
違和感は少ないほうがいい

!!! チラシなどの制作時に  
当事者や保護者などの意見を聞く

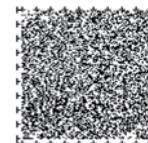
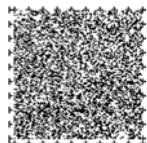
☞ 障がいのある子の特性を  
伝えても理解してもらえる？

!!! 申し込みフォームに  
「配慮の必要なことはありますか」  
などの項目を記載する

☞ 当日の子どもの体調を見て  
参加を決めたい

!!! 事前の申し込みなしでも  
参加できるようにする

できるところから  
取り組んで  
みましょう



## 参加者の笑顔を増やすためにできること

### 1 コミュニケーションの工夫

#### ● 溶け込みやすくする

イベント開始前の時間を有効に使い、子どもや保護者と軽い会話でコミュニケーションを取るようにしましょう。

#### ● 要望を聴く

「困ったときにどのように対応してほしいか」などの要望を保護者に聞いておくと、いざというときの安心感につながります。

#### ● わかりやすく話す

あせらず、わかりやすい言葉でゆっくり話しかけ、アイコンタクトを大切にしましょう。



### 2 感覚への配慮

#### ● 音や光の調整

大きな音や強い光など、刺激に敏感な子もいます。音量や照明は適切に調整しましょう。

#### ● 匂いの排除

感覚が敏感な子に配慮し、匂いの強いもの（香水など）の使用を控えましょう。

#### ● 安静にできる場所の確保

発作や体調不良になったときに備えて、安静にできる休憩スペースを確保しましょう。



### 3 活動への参加を促す工夫

#### ● 肯定的な声かけ

「～してみない?」「～してみよう」「～があるよ」「～好きかな?」など前向きな声かけをしましょう。

#### ● 無理強いをしない

子どもが飽きたら帰れる、長くいても短くても選べるなど柔軟な運営を大切にしましょう。

#### ● 交流は自然に

障がいのある子とない子を無理に交流させようとする必要はありません。同じ空間を共有しているだけで十分な交流ととらえましょう。

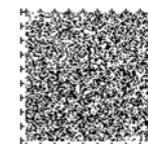
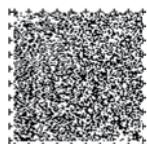
#### ● 大人がお手本を見せる

子どもが身構えなくていい雰囲気をつくるのは大人の役目です。運営スタッフや保護者が楽しんで交流する様子を見ることで、「自然に接していいんだ」と感じることができます。

### 4 飲食が伴う場合の配慮

● アレルギー対応食や、食べやすい形状の軽食を用意する、持ち込みOKなどの配慮をしましょう。

● 安心して食事ができるスペースを確保しましょう。



## 専門スタッフ\*と協力して運営しよう

イベントの信頼性を高め、参加者の安心を高めるために、テーマに合った専門スタッフ\*等との連携をおすすめします。

### ● 専門家・団体と連携するメリット

#### ● 安心感の向上

インクルーシブイベントの運営経験が豊かな企業・団体や福祉事業所、医療・福祉の資格を持つ専門スタッフなどと連携することで、参加者と保護者に大きな安心感を提供できます。

#### ● 適切な対応の実現

医療・福祉分野のニーズに対して、より専門的で適切な対応が可能になります。

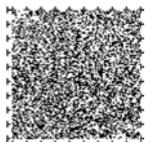
#### ● 企画の質向上

協力団体を通じて当事者あるいは保護者などの意見を聞き、広報物や企画内容の適切さを確認することができます。



#### ※専門スタッフとは？

障がい児の特性に合わせてサポートを行う専門分野の有資格者を指します。看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、手話通訳者、要約筆記者、管理栄養士など。



イベントを  
終えて

## 今後につなげていくために

イベントを単発で終わらず、継続的な活動につなげるのが大切です。

### フィードバックの収集

参加者アンケートなどで、参加者からのフィードバックを収集します。

### 改善点の洗い出し

スタッフ間で反省会を行い、良かった点、改善点を記録し、次の企画に生かしましょう。

### 気づきを増やしていく

一度に大きな成果を求めるのではなく、実施のたびに気づくことが増えるのが良いと考えましょう。

### 運営者がイベントを体験する

運営者自身が楽しむ姿勢が大事。さまざまなインクルーシブイベントに参加し、体験することを大切にしましょう。

